# SC-IB News '15.11

# コミ&事務局通信 27/NOV/2015



http://www.scout-ib.net/

# □ 第3回GBのつどい SILVER AXE 2015

今年で第3回目となる「GBのつどい」が、10月31日~11月1日に「大和の森・高萩スカウトフィールド」において1泊2日の日程で行われました。

この「GB のつどい」には、次の大きな4つの目的があります。

- ① GB とは何か(位置づけと役割)を再確認すること
- ②各隊で行っている GB 訓練を補完し、GB 意識を高めること
- ③参加したスカウトが自信をもって、班員に 知識・技能を指導できること
- ④他の団の GB と仲間になること

です。そのために「シルバーアックス」という 10 の専門教室から参加したい2コマ選び必要な知識や技能を習得したり、他 GB のつどいならではのプログラムに参加します。

今年から増えた「目的」が、①の「GB とは何か(位置づけと役割)を再確認すること」です。これは、昨年・一昨年の GB のつどいを行ってきて、感じた「足りなさ」を埋めるためのものです。そのため今年は2つのプロ



グラム、初日の午前中の「GBワークショップ」と「B-Pキャンプファイア」を行いました。
GBワークショップは、GBとは何かについて、その位置づけと役割について「知る・理解する」をねらって、「GBとは」「GBの心得」「GBは何をしなければならないのか」「GB改造計画」の4つが行われました。その他に、GBの位置づけと役割を意識的に盛り込んだ「テント張りゲーム」で、それを自ら気づかせ、それを担当コミッショナーが意識づけるという初めての試みが行われました。参加したスカウトたちは何かしらの気づ

午後は、スカウトは、シルバーアックスの専門教室 1 時限目で、それぞれが希望する教室に参加しました。その間に、引率指導者は大和の森・高萩スカウトフィールド「SF 探検」に出かけました。これは、高萩スカウトフィールドの第2エリアの西側の境界の道なき道を進むもので、若林副コミの先導により地図とコンパスを頼りにを踏査したのですが、あまりにも過酷な道だったので、コース半ばで短絡して戻りました。

きがあったようです。

夕食を各団で摂ったあとは、キャンプファイヤーです。参加者全員で火を囲み、歌あり、今後のスカウト活動へつながるヤーンありと文章にすると今までと変わらないようですが、今年は小さなほだ火を囲んで、隊長が静かにお話をするという、まさに B-P がやったであろう「営火」そのもので、GB だけが参加できるこの集いの意味がよく理解できる



ものなになりました。

その後の GB ミーティングは「GB とは何かを理解する何でも相談コーナー」を行いました。楽しいインタビュー形式による、杉浦副コミの司会で、スカウトがスカウト出身の県連役員に質問したり相談をするというものでした。スカウトからも突っ込んだ質問が出たり、逆に質問をされたりと、大変盛り上がりました。

2日目午前中は、シルバーアックス2時限目を行い、その後閉会式となりました。

そして恒例の「GB のつどい」に参加したスカウトだけが授与される、特製ワッペンが県コミッショナーから手渡されました。(今年のテーマカラーは「イエロー」(赤から始まるレインボウカラーで7年で一巡)。

指導者・スタッフ一同、「GBのつどい」に参加したスカウトが、原隊に戻って、自信をあふれる GB として班を引っ張ってより楽しく実のあるスカウト活動と、スカウト自身が大きく成長する事を期待しています。

来年の GB のつどいは、4月30日~5月1日に実施する予定です。

### 標準団を目指すということ・その6

「どうやったらスカウトを増やせるか」の第 2弾です。第2回の今回は、保護者が安心で きる指導体制について述べていきましょう。

### 団は安全をどう確保すればいいの?

さて、ボーイスカウトの組織では、運営や教育の基本単位を「団」としています。団は日本連盟の教育規程に示される「標準」の団運営、プログラム活動、班制教育や進歩制度やスカウトを教育する指導者の養成を実施することを求められています。地区や県連、そして日本連盟は、この団を支援するためにあると行っても過言ではありません。

安全管理、危機管理についても、その管理の主体は「団」なのです。

ところで、指導者に求めらていれる「信頼」とは、「人間性」「確かな知識とスキル」「プログラム提供能力」の3つだと先月号で述べました。では、団や隊に求められている「信頼」とは何かというと、そう「安全」が確保されるかのなのです。そのことが真っ先に思い浮かびます。

や隊に求められる「安全の確保」とは どういう状況のことなのでしょうか。 それにはいくつか考えられます。

- 指導者は安全管理や危機管理ができるのか。 (それができるためのトレーニングを受けて いるのか、十分な経験を有しているのか。)
- 安全管理や危機管理を行うに必要な指導者の人数が確保されているのか。
- 団の安全管理体制や危機管理体制はしっか り構築されているのか。
- 救急箱は隊・班・組ごとに配備されているのか。
- 野営装備はきちんとメンテナンスされているのか。

等です。

ず最初は、**「指導者は安全管理や危機** 管理ができるのか」についてお話ししま しょう。

最近のWB研修所では、その履修後1年以内に「安全セミナー」を受講しなければ、WB研修所(基礎訓練課程)の修了認定がなされなくなったように、日本連盟でもこの安全には力を入れてきました。県連でも、昨年から「安全講習会」を「安全・危機管理講習会」にし、より幅広い知識が習得できるようにしました。

# 「安全をどう確保する?」

しかし、それらを受講した指導者は、ごく一部に限られています。県連としても「安全・危機管理講習会」を指導者の初任必須研修として位置づけていますが、まだまだ整備途中です。

また、団が備えるべき「安全管理・危機管理 ハンドブック」についても、県連としてその雛型の作成が長年懸案となっていましたが、漸く 発行が見えてきた段階です。1月発行に向けて 現在、県コミグループが鋭意作成しています。

このように、団や隊の安全管理や危機管理は、各団や指導者の個人の取り組みによって、確保されているにとどまっているのです。このような状態で「ボーイスカウト」という名の下に活動することは憚られます。早急に、各団で「安全管理や危機管理」マニュアルを作成、周知して、この体制を作り上げなくてはなりません。それがあってこその「信頼」です。

大は、指導者の数です。コミ&事務局通信の10月号で「指導者1人が、安全を管理できる範囲はそれほど大きくありませんし、何かコトが起こってしまったとき、1人では対処しきれません。ですから、指導者は十分なトレーニングを受けた上で、必ずチーム(必ず2人以上)を組んで、安全管理、危機管理にあたることを基本としている」と述べました。

以前、「隊員が少ないから、隊長 1 人しか任命していない」という話を聞いたことがあります。団の財政面だけを見れば、やむを得ない側面もありますが、そもそも団はスカウティングを行うために組織されたものです。活動を行うためには、プログラム活動だけでなく、それに伴うリスクに対応できるだけの、最低限の指導者数というものがあるわけです。1 班や 1 組であっても最低 2 人(隊長と副長)、班・組が1 つ増えるごとに副長を+1名。これが安全管理・危機管理から見た最低人数です。

保護者の側からすれば、例えばスカウトの募集説明会を例にとると、隊長 1 人だけでなく、全ての副長等(副長補やデンリーダー)がその場にいれば、それだけで「安心」なんですね。どんなに能力があるベテラン隊長 1 人より、複数の指導者、質よりも量なんです。

**何** えば、キャンプ先でスカウトが集団食中毒になってしまいました。その場合、団はどのように対応しますか? ボーイ隊のハイキングでスカウトの1人が交通事故に遭ってしまいました。団はどう対応しますか? ベンチャーのアドベンチャーハイク(指導者が同

行しない)で1人のスカウトからの定時連絡がありません。どうすればいいですか?

これは、決してあり得ないことではありませんよね。これらの対応マニュアルはありますか? 団メンバーそれぞれがすぐに対応できるように、それを今すぐに取り出せるようになっていますか? また、現地にいる隊の指導者は適切に動くことができますか?

これらは、実際に使えるものでなければ何の役にも立ちません。マニュアルはお飾りでも、安心のためのものでもないのです。よく「マニュアル人間」といって応用がきかない人を作り上げるのが「マニュアル」とされていますが、基本が示されているマニュアルは必要です。生きたマニュアルであることが大切なのです。要はどうやって使うかです。そんな運用をしなくてはなりません。・・・それ以前に、そのマニュアルに従った安全管理体制や危機管理体制を構築できていなければだめですよね。

営装備については、きちんとメンテナンスをしなければならないものがあります。例えばナタは、切れないものでは余計な力が必要で却って危険です。きちんと刃を研いだ状態でなければなりません。テントも張り綱が劣化していないか、ペグはそろっているか等、指導者から指導を受けた班長が中心となって使用後はメンテ&保管することが大切です。そんな姿勢が隊に育っていますか?

保護者は、プログラム活動はもちろん、これらのことをよく見ています。そして「安心」できる団なのかどうかを見極め、評価しています。

お母さん同士のふだんの会話の中にスカウト活動が出てきたときに、それが「安心」できる活動かどうかが、その言葉の中にいろいろな形で出てきます。良くも悪くもそれが評判となって広がっていくのです。万一、事故が発生したときに、どのように対処したかが、その後の団を大きく左右していくのでしょうね。

# ○「第2回指導者のつどい」のお知らせ

再三に亘ってお知らせしている「安全管理・危機管理」ですが、現在 県連盟では、コミッショナーが中心になって、団常備用の「安全管理・ 危機管理ハンドブック」と指導者それぞれが携行する「安全手帳」を鋭 意作成しています。その重要性に鑑み、それらの発行と団・指導者への 配付、そして内容の周知・共有は、一日でも早く行わなければなりません。

そこで、第1弾の「安全管理・危機管理ハンドブック」が1月に発行されるのを受けて、指導者の集いの内容を変更して、安全管理と危機管理をテーマに、その管理体制の整備、危機の発生を未然に防止するための事前対策、危機発生時の対応や再発防止に向けた対策を含めた幅広い局面に対応していく取り組みについて研究します。

※団委員長と各隊隊長は、最優先での参加をお願いします。

#### ●アウトライン

日 時 : 2016 (平成28年) 年2月7日 (日)

9:30~16:00 (受付9:10~9:30)

場 所 : 茨城県立青少年会館・大研修室

参加対象: 団委員長と全ての隊の隊長(もしくはその代理者) 参加費: ¥500(資料が追加で必要な場合¥2,000円/冊)

※参加各団に 1 冊は無償配付します。

持ち物・服装:昼食、飲み物、マイカップ、筆記用具。制服。 その他 : 駐車場が狭いので乗り合わせでお越しください。



### ◎安全管理・危機管理関する県連の動き

現在県コミグループでは、「安全管理・危機管理ハンドブック」の 最終仕上げをしています。同時に県連盟コミッショナーの作業チームとして、各部門の専門家を交えた「安全管理・危機管理特別チーム」(チーム長:関原副コミッショナー)を編成して、「安全手帳(仮称)」の編纂にとりかかる準備をしています。この安全手帳は、指導者が活動中にいつでも確認できるように、制服の胸ポケットに入れて携行できるサイズのもので、来年の夏季の活動シーズン前までには、指導者全員に配付できるように計画していまるものです。

# ビーバースカウトの 加盟登録事務手続 について

教育規程の改正 (1-10 教育の区分 H27.4.1 施行) に伴い、ビーバースカウトの加盟登録事務手続きが、下記のとおり一部変更となりましたのでお知らせします。

### ① 加盟登録事務手続きの変更点

次の対象者について申請できる時期が変更となりました。

- ●対象者: 小学校入学前(幼年長年代)の方
- ●変更点:加盟登録システムでの申請受付日(処理可能日) 改正前9月1日以降 → 改正後1月1日以降
- ●手続き:対象者を加盟員または非加盟員として登録する場合、1 月以降に追加申請。申請の流れ(仮申請~承認)に変更は ありません。

ただし、システム停止期間 (年末年始および定期メンテナンス日など) は申請できません。

### ② 年末年始のシステム停止期間中または直後に活動があり、 その間に加盟登録・共済補償を開始したい場合

希望者については、12月中に申請することができます(事前予約申請)。

詳細は、日本連盟のホームページに掲載されています。

※この件に関する問い合わせ先:管理部総務課 登録・共済担当

E-mail:touroku@scout.or.jp

Tel:03-5804-2903 Fax:03-5805-2901

※当該ホームページ

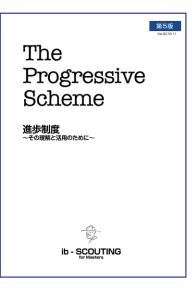
http://www.scout.or.jp/\_src/sc3714/349\_bvs\_info.pdf

# **🍑 進歩制度 ~その理解と活用のために~** (第5 版)

カブ隊の進歩制度の改正、上進時期の変更、事業(活動)年度の変更、 制服や記章・標章の改定など、昨年から今年にかけて、団や隊を取り巻く環境が大きく変化しました。

それを受けて、進歩制度の位置づけや在り方や運用の方法を詳しく解説した「進歩制度~その理解と活用のために~」を改訂しました。現在 PDF 化の作業をしています。ホームページには12月10日頃までにアップしますので、ダウンロード&印刷をしてご活用ください。

改訂にあたっては、中身を整理して見やすくするとともに、大切なポイントは太字にしたり色文字にしました。また、文章も見直して、より理解が進むようにするなど、ほぼ全てのページ亘って何らかの修正が行われています。



# △進歩制度の本質とは・・・

ある本の中にこんな一文がありました。B-P の言葉をもじった、いや発展させたものですが・・・・

「自分のカヌーは、自分で作って漕げ!!」

(そして、作ったカヌーが壊れたら、自分で泳ごー。泳ぎながら、どー したら助かるのか、良く考えよう!)

だそうです。今の社会では、「なんて無責任なんだ!」なんて声が聞こ えてきそうですが (笑)。

ですが、これが、本当の「進歩制度」なんですよね。

- ……壊れないカヌーを作るにはどうしたらいいだろう・・・
- ▶▶そもそもカヌーは壊れるし、ひっくり返るもんだよ
- ▶▶ってことは、泳ぎができなくちゃまずいな
- ▶▶どんな状況で泳ぐのかな?……。静水なワケはないから、川で流されるんだろうな。クロールよりも平泳ぎかなぁ。
- ▶▶あ、着の身着のままじゃ耐えられないから、ライフジャケットは 当然着けなくちゃ
- ▶▶それはどこにあるんだろ?どうすれば借りられるの?
- ▶▶う~ん、上手な流され方ってあるのかな?
- ▶▶そうだ、岸に上がったとき、きっと体が冷えてるだろうから、た き火をしなくちゃ。
- ▶▶ってことは、マッチの防水加工もしなくちゃ。
- ▶▶だけど、都合良く流木があればいいけれど、きっと濡れているから、 ライターの方がいいかな。
- ▶▶流木に火が着きやすくするには表面削って「ささくれ」をつくって……
- ▶▶ということはナイフも必要だ。濡れないようにビニール袋に入れて! そして、ひっくり返ったときに失くさないところは・・・・

・・・と、このようにどんどん取り組むべき課題が広がっていきます。でも、これって楽しいでしょ? みんなで頭を寄せ合ってワイワイガヤガヤとこういうことを考えること、それをみんなで話し合って、その対策を考え、それをあーだこーだと試行錯誤しながらみんなで楽しんで準備すること、そしてそれを実行し、失敗し、反省評価して、「今度こそ!」につながるんです。

それが「進歩」の本当の姿なんじゃないでしょうか。初めに進歩課目ありきじゃないんですよね。楽しい活動するためにやらなきゃならないことがあって、それをやったら、進歩してた!進歩課目に繋がった……です。おお、プログラムと進歩が直結しちゃいました。

この「想定問答」ってとても大切なんです。すべてのプログラムのバックグラウンドとなるものです。進歩課目だけを見て、それだけやっていても、それは孤立(独立)したものでしかありません。しかし、活動のテーマがあって、しかも班の仲間達とどんどん想定を膨らまして、答えを導き出すってとても楽しいんです。楽しく魅力あるプログラムを提供する・・・ってよく言われていますが、その前段階としての「面白がる力」が班の中で醸成されていなくてはなりません。それがあってこその楽しく魅力あるプログラムです。そんな班だから楽しいんです。

そうであれば、いろいろなことが連携し、連結し、融合して、つながっていくものなのです。そうなると総合的に物事が捉えることができます。見えてくれば、チームの中の自分の役割が見えてきます。それが見えればやることが把握できます。おお、班制度につながってしまいました。

# □しぜんとあそぼ デイキャンプ 2015 in 高萩スカウトフィー ルド (第1回) の開催 (報告)

日 時:11月10日(火)9:30~15:15場 所:茨城・高萩スカウトフィールド参加者:高萩市立東小学校6年生36人

事業内容:自然体験教室

日本連盟では、地球環境基金助成を受けて、大和の森・高萩スカウトフィールドにて、高萩市内の小学生を対象に、「しぜんとあそぼデイキャンプ 2015」を開催しました。当日は、あいにくの雨でしたが、ネイチャートレイル、伐倒作業、丸太切り、火起こし&おやつ作り(ポップコーン)、フィールドの自然物を使ったクラフトを、林業家、やまぼうし自然学校のスタッフ、ボーイスカウトの指導者が協力して指導しました。参加した生徒たちのたくさんの笑顔と出会うことができました。また、11月24~26日でもこの事業が市内の他の小学校を対象に実施されました。日本連盟から県連盟に支援の依頼があり、若林第1地区コミッショナー、戸舘理事、吉川理事が奉仕されました。

# □スカウト精神とは・・・

いい加減に取り組んだら いい加減な結果しか得られません 批判ばかりされたなら やる気が失せてしまいます いつも指示されていたら ものごとを考えなくなります

でも・・・・

仲間同士で「きまり」を作ったら ルールをしっかり守ったら 班の任務をやり通したら 今すぐものごとに取り組めば お互いに認め合ったら お互いにちょっとガマンをすれば ありがとうの言葉を発すれば 観察と推理で先んじて行動すれば みんなのために行動したら 力を合わせてやり遂げたら 真剣に取り組んだら 責任感が生まれます 正義の心が育まれます 自信につながります 気分が良くなります 信頼の心が生まれます 協調の心が生まれます 周りの空気が暖かくなります 気持ちが嬉しくなります 心が豊かになります 心が熱くなります 感動がそこにあります

# これが「スカウティング」なんだ!!

こんなスカウティングにしたいね。

「やりたいことと やらなければならないこと」 やりたいことをやるためには、そこにやらなければならないことがある。 そのやらなければならないことを ごくあたりまえのように、構えずふつうにできること、 それを「楽しく」すすんでできること

それをぼくたちは「スカウト精神」って言っている。